

## 色漆を用いた化粧道具

クラフト分野 井波ゼミ A2201720 成田夏菜

### 研究の背景

日本の化粧の起源は縄文時代とされている。女性にとって化粧は日常的なものであり、そのための化粧道具は必要不可欠なものである。現代の化粧品は、ポーチに入れて持ち運ぶことができ、いつでも化粧をすることができる。これは江戸時代に始まったことであり、旅櫛箱という現代で言うポーチのようなものに化粧道具を入れて持ち運んでいた。当時は、化粧道具に漆を用いていたが、現代は漆を身近に感じることは少なく、女性が漆塗りの化粧道具を使用することはほとんど見られなくなった。

### 研究の目的

2020 年をきっかけとして日本の文化が見直されている中、工芸品の一つとして女性に身近な化粧道具を漆を用いて提案したい。現代の生活様式を踏まえ、若い世代に対しても漆工芸に目を向けてもらうことを意識し、色漆を用いた化粧道具をポーチを主体として製作する。色漆を中心としたデザインにすることで、工芸品としての親しみ、興味を持ってもらいたい。また、色漆は漆と顔料を練り合わせて精製するが、顔料の分量比等で色の発色やムラの出やすさが異なるため、色漆の調合についてもサンプルを通し検討する。

### 計画(研究のプロセス)

- デザインの構想
- 作品の試作(大きさ、形等の検討)
- 乾漆の研究
- 作品制作

[制作工程]

デニム生地でのポーチ作成・・・図 1

- ◆ かため
- ◆ めすり
- ◆ 捨て塗り
- ◆ 空研ぎ
- ◆ 下塗り・・・図 2
- ◆ 水研ぎ
- ◆ 色漆の試験手板作成・・・図 3、4  
(紫、緑、ピンク)
- ◆ 形の調整
- ◆ 中塗り(色漆)・・・図 5
- ◆ 水研ぎ
- ◆ 上塗り(色漆)
- ◆ 装飾
- ◆ チャックの縫い付け
- ◆ 下の布の縫い付け



図 1 (ポーチ作成)



図 2 (下塗り)

- ◆ 中の布の縫い付け
- ◆ 仕上げ



図 3 (色の作成 1)



図 4 (色の作成 2)

### 成果もしくは考察

ポーチの大きさとして、気軽に持ち運べるように、最低限のものが入る大きさを目指した。形のデザインは、紙ふうせんのような、お手玉のような形をイメージした。理由として、古典的な要素を取り入れたいと考えたからである。この形は日本に古くからある形であり、昔から収まりの良さが感じられ、かわいいとされていた形なのではないかと考えた。また、このポーチを色を変えて 5 つ作成し、形が同じであっても、色によって感じ方は人それぞれであり、その日の気分や服装に合わせたものを選び、持ち運べるようなものを制作した。使用する色漆は、赤、ピンク、紫、緑、黒の 5 色だ。また、漆を用いたポーチのため、パステルカラーなどの軽い色というよりは重厚感のあるような色になるように制作した。



図 5 (中塗り・赤)

今回、若者にも漆工芸に目を向けてもらいたいという所から、現代の生活で日常的に使われているものに色漆を用いたいと考え、女性に身近であり、必要不可欠である化粧から、色漆を用いた化粧ポーチを制作するというところにいきついた。漆でポーチを作成するにあたって、漆の塗り味を生かしながらどのようにポーチのような柔らかそうな見た目にするか苦労した。実際にジーンズ生地 of ポーチを縫い、それをもとに漆を用いてポーチを作成していくという方法をとった。初めてのことであったので試行錯誤しながら制作を進めた点も多かった。このような新しい挑戦を通し、新たな漆の可能性につながる研究の意義を感じることができた。